

発生予察情報

特殊報第1号

平成20年9月8日
秋田県病虫害防除所

メロンホモプシス根腐病の発生について

1. 病虫害名：メロンホモプシス根腐病 *Phomopsis sclerotioides*

2. 発生作物：メロン

3. 発生の経過

平成20年5月下旬に県内のメロンほ場で、地上部が萎ちょうし、地下部が褐変腐敗する症状が見られ、秋田県農林水産技術センター農業試験場に診断依頼があった。同左にて調査したところ、黒い帯状（疑似子座）が確認されたため、秋田県立大学生物資源科学部に同定を依頼した。

その結果、病原菌の分離や遺伝子診断により、本症状は *Phomopsis sclerotioides* によるメロンホモプシス根腐病であると断定した。

本病は、昭和58年に神奈川県で初めて発生が確認され、その後、平成7年に茨城県、平成9年に島根県で発生が確認されている。本県におけるメロンホモプシス根腐病の発生は初確認である。

一方、同菌によるキュウリホモプシス根腐病は神奈川県、群馬県、埼玉県、福島県、岩手県、宮城県、山形県の7県で発生が報告されている。

4. 病原菌の特徴（性質および伝染）

本病は糸状菌による土壤伝染性病害で、根腐れ症状を引き起こす。病原菌は、根部残さとともに土中に残存して次作の伝染源となる。病原菌の発育適温は24～28℃、最低限界8℃、最高限界温度は32℃付近にあり、一般に低温側において発育良好である。

病徴は、初め、晴れた日中には萎ちょうするが、朝夕や曇雨天時には回復する（図－1、2）。これを繰り返して下葉から徐々に枯れ上がり、発病程度の高いものは、萎凋したまま回復せず枯死に至る。主に着果期以降に発生することが多い。

根は初め細根が腐敗脱落する（図－3）。激しく侵されると太根まで水浸状に褐変腐敗し、部分的あるいは全体的に灰色～黒色を呈する。腐敗の進んだ根を顕微鏡等で観察すると、疑似子座（図－4）と疑似微小菌核（図－5）が認められ、他の病害と容易に区別できる。

5. 寄主範囲

本病は、メロン、キュウリ、スイカ等のウリ科植物を特異的に侵す。

6. 被害状況

萎れの確認されたほ場を対象に現地調査を実施したところ、14地点63検体のうち、5地点19検体でメロンホモプシス根腐病を確認した。

なお、本病以外にメロン黒点根腐病、メロン紅色根腐病も確認されており、メロンホモプシス根腐病と混発してる場合が多く観察された。

7. 防除対策

①被害株の根を丁寧に抜き取り、焼却処分する。この場合、周辺環境に十分留意する。

②太陽熱利用や土壤還元による土壤消毒を行う。

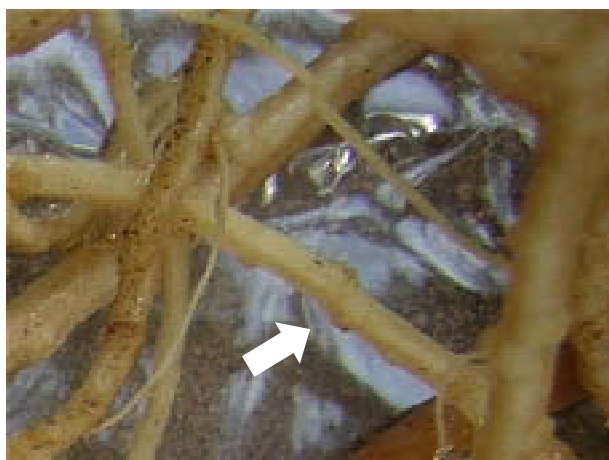
③本病の発生したほ場の耕起、整地を行った管理作業機は、そのまま無病ほ場に使用すると、無病ほ場も本病に汚染される恐れがあるため、作業機に付着した土壌はしっかりと洗い落とす。



図－１ ほ場での萎れ症状



図－２ 晴れた日中には萎凋するが
朝夕や曇雨天時には回復



図－３ 細根の脱落



図－４ 疑似子座



図－５ 疑似微小菌核

【問い合わせ先】

秋 田 県 病 害 虫 防 除 所 0 1 8 (8 6 0) 3 4 2 1
 秋田県農林水産技術センター農業試験場 0 1 8 (8 8 1) 3 3 2 6
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>